

## 第一次葉山町消防計画(素案)に対するパブリックコメント(意見募集)の実施結果について

1者1件

No.	頂いたご意見	町の考え方
1	<p>消防団に対する公金の歳出は、近年では漸減傾向にあり、従来と同等の分団訓練を実施する事が、きわめて困難な状態にある。一方、組織としての消防団の設置は、地方公共団体に対して、法律によって義務付けられているので、消防団の完全廃止は不可能。しかし、所属する団員が0人になるのは妨げないものと思料される。そこで、以下の意見を述べたい。</p> <p>一、消防団への新規入団者募集を終了し、員数を自然減社会減に任せて、20年後の所属消防団員0人を目指す。</p> <p>二、常設消防を強化すべく、来年度より20年間に亘って、毎年一名ずつ、常設消防官吏の純増を図る。</p> <p>三、AED講習を週一回実施して、「全町民AED講習受講済」を目指す。</p> <p>四、現在の消防団詰所は、立地の標高により、消防本部の支所として有効利用する。</p> <p>五、現在の消防団所有機材は、消防本部やその支所の所有機材として有効利用する、または自主防災組織あて貸与する。</p> <p>以上。</p>	<p>将来を見据えた具体的なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。ご提案の内容は、人口減少社会を見据えた消防体制の在り方について重要な問題提起であり、町としてもその趣旨は理解しております。</p> <p>しかしながら、本町の上位計画である「第5次葉山町総合計画」においては、「地域防災力の向上」を重要な施策として掲げており、消防団は、その中核を担う存在として位置付けられています。このため、消防団員数をゼロとすることを前提とした施策は、総合計画との整合性を欠くものとなります。また、能登半島地震では、行政や常設消防の対応だけでは十分に行き届かない中、消防団が避難誘導や救助活動を担うなど、地域防災において重要な役割を果たしました。こうした実例からも、消防団の役割は現在においても大きいものと認識しています。</p> <p>将来的にご指摘のような課題が生じる可能性については認識しておりますが、現時点で策定する「第一次葉山町消防計画」において、これらのご提案を反映することは困難です。いただいたご意見は、今後の消防行政を検討する上での参考とさせていただきます。</p>